

# 小学校 図画工作科

## 1 改訂の趣旨及び要点

### 目標の改善

表現及び鑑賞の活動を通して、**造形的な見方・考え方**を働かせ、**生活や社会の中の形や色など**と豊かに関わる資質・能力を育成する。

#### 知識・技能の習得

対象や事象を捉える**造形的な視点**について**自分の感覚や行為を通して**理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、**創造的に**ついたり表したりすることができるようにする。

#### 思考力・判断力・表現力等の育成

造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、**創造的に**発想や構想をしたり、作品などに対する自分の**見方や感じ方**を深めたりできるようにする。

#### 学びに向かう力・人間性等の涵養

つくりだす喜びを味わうとともに、**感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度**を養い、豊かな情操を培う。

### 内容構成の改善

⇒「**資質・能力**」を基に整理

現行学習指導要領		新学習指導要領	
A 表現	(1)材料を基に造形遊びをする活動 ア 発想や構想の能力と活動の概要 イ 発想や構想の能力と活動の方法 ウ 創造的な技能	(1)発想や構想に関する項目 ア 造形遊びをする活動を通して育成する イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する	思考力・判断力・表現力等
	(2)表したいことを絵や立体、工作に表す活動 ア 発想や構想の能力と活動の概要 イ 発想や構想の能力と活動の方法 ウ 創造的な技能	(2)技能に関する項目 ア 造形遊びをする活動を通して育成する イ 絵や立体、工作に表す活動を通して育成する	技能
B 鑑賞	(1)作品などを鑑賞する活動 ア 鑑賞の能力と活動の概要 イ 鑑賞の能力と活動の方法	(1)鑑賞に関する項目 ア 鑑賞する活動を通して育成する	思考力・判断力・表現力等
(共通事項)	(1)「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導 ア 形や色などに関する事項 イ イメージに関する事項	(1)ア 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して育成する イ 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導を通して育成する	知識 思・判・表

★「学びに向かう力、人間性等」は、表現及び鑑賞の活動を相互に関連させながら育成します。

### 「A 表現」及び「B 鑑賞」の柱について

▼全学年を通して身につけたい力を「柱」としてまとめたものです

	ア 造形遊びをする活動	イ 絵や立体、工作に表す活動
A 表現 (1)	・造形的な活動を思い付く ・どのように活動するかについて考える	・表したいことを見つける ・どのように表すかについて考える
A 表現 (2)	・材料や用具に十分に慣れる※ (※学年に応じて文言は異なります) ・活動を工夫してつくる	・材料や用具に十分に慣れる ・(表したいことを基に) 表し方を工夫して表す

**「A 表現」では、特に、児童の思いを大切にしたい指導が大切になります**

「各学年の「A 表現」の指導に当たっては、活動の全過程を通して児童が**実現したい思いを大切にしながら活動できるようにし、自分のよさや可能性を見だし、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養うようにすること**」

**POINT**

B 鑑賞 (1) ◎ **自分の見方や感じ方を広げたり深めたりする**

↑第5学年及び第6学年の鑑賞の対象に、「**生活の中の造形**」が位置付けられました。**生活を楽しむ豊かにする形や色などについての学習を深めることができるように**しましょう。

### ここを読めばわかる！「解説」のツボ

小学校学習指導要領 解説 図画工作編  
P.6-8 「図画工作科の改訂の趣旨及び要点」  
P.19 「教科の目標と学年の目標及び内容の構成の関連」  
P.146-147「教科の目標、各学年の目標及び内容の系統表」

## 2 小学校図画工作科における授業づくりのポイント

### 「造形的な見方・考え方」を意識した授業づくり

※「**造形的な見方・考え方**」とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの**造形的な視点**で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと

図画工作科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「**造形的な見方・考え方**」(※)を、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげられる授業づくりを目指しましょう。

### 「造形的な見方・考え方」を意識した授業づくりのイメージ

**造形遊び** ⇒ ○低学年においては、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」との関連を考慮する

	具体的な発問のイメージ	指導するポイント
低学年	「この材料でどんなことができるかな？」 (例：自然物…土、粘土、木の葉、水など 人工物…紙、空き箱、縄やひも、布、紙袋、お道具箱の中身など)	<b>全体的に“広く”見る</b> ことが大切。 ○どうことが行われたか、児童一人ひとりの気づきや工夫を見守り、励ます。 ○指示的になりすぎて児童の発想の幅を狭めないように注意。
中学年	「この材料とこの場所でどんなことができるかな？」 (例：机の下、廊下、空き教室、樹木や遊具がある場所など)	<b>特に“場所”にこだわる</b> ことが大切。 ○学校内の環境を教師が見つめ直し、児童が資質・能力をより発揮できそうな場所を普段から探しておく。 ○作品の完成する段階で声かけして、どんな工夫をしたかを拾っていく。
高学年	「材料や場所の特徴をいかしてどんなことができるかな？」 (例：材料の特徴…形や色、質感、切ったり組み立てたりできるなど 場所の特徴…風が吹く、暗い、人が多く通るなど)	<b>計画してきたことを実現</b> することができるようにすることが大切。 ○「来週の時間は、この場所でこんなことをするよ」と事前に知らせ、子どもたちが見通しをもち、予測することができるしかけを。 ○一方で、材料や場所と関わりながら、考えが変わっていくことも大切。

**絵や立体、工作などに表す** ⇒ ○児童が**表したいことを見つけられる**題材設定を大切に

児童が絵や立体、工作などに表す時の発想や構想の流れとして、次の2通りが考えられます。

- ①最初に表したいと思ったことを作品やかたちにしていく
- ②材料と関わりながら、だんだんと構想(表したいこと)が立ち上がっていく

⇒題材によって、①の時もあれば、②の時もあります。どちらも大切にして  
特に、②のような発想や構想の流れは、「造形遊び」でも資質・能力を育成し、関連付ける。

**鑑賞** ⇒ ○**表現との関連をはかる** ○指導の効果を高めるために**鑑賞を独立して扱う**ことも可能

児童の活動や作品、美術作品、印刷物など、さまざまなものを鑑賞することで、**自分の見方や感じ方を広げたり深めたり**します。

#### 【鑑賞の工夫】

- ・自分の作った作品や活動の様子を**児童自身がデジタルカメラで撮影したものを使って鑑賞**すると、子どもたちがお互いに面白いと感じている視点がわかり、次の活動につなげることができる。
- ・〔共通事項〕に示された事項を視点として、感じたことや思ったことなどを話し合ったり、言葉で整理したりするなどして言語活動を充実させる。

### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

**主体的な学び**⇒学習の**見通しを立てたり**学習したことを**振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる**場面を設定する

○振り返りは毎時間でなくてもよい。言語だけでなく、制作過程を撮影した動画や写真で振り返ることも効果的です。

**対話的な学び**⇒対話によって**自分の考えなどを広げたり深めたりする**場面を設定する(自分との対話、子ども同士の協働、地域の人との対話)

○「この形や色でよい」「自分の表したいことは表せているか」など自分の行為や活動を振り返り、感じたり考えたりすることを大切にしつつ、互いの活動や作品を見合いながら考えたことを伝え合ったり、感じたことや思ったことを話したりするなどの言語活動を一層充実することが重要です。

**深い学び**⇒学びの深まりをつくりだすために、**児童が考える場面と教師が教える場面を効果的に組み立てる**

○育成をめざす資質・能力を明確にし、表現及び鑑賞の活動を通して、“つくり、つくりかえ、つくる”という学習過程を重視することが大切です。